

関東能開大における学生の自主的活動 ～学園祭の取り組みを中心として～ その1 企画編

関東ポリテクカレッジ
(関東職業能力開発大学校)

中嶋 俊一・藤田 秀樹・高橋 史明
江島 信之・先崎 康裕・宇都宮直樹

1. はじめに

関東職業能力開発大学校(以下関東能開大と略す)は2001年4月に応用課程4科を新設し、専門課程5科と合わせて学生総定員360名の大学校として新たなスタートを切った。本校学生に対する教育訓練目標は専門課程は実践技術者の養成、応用課程は製造現場のリーダー養成である。したがって本校に学ぶ学生は、将来の製造現場を担うための実践力である技能・技術の習得に日夜努力することになる。

こうした実践力は、幅広い行動力を伴うことで裏付けられる。大学校において学生が幅広い行動力を培う1つの方法に、学生の自主的活動があげられる。本校は昭和58年に小山職業訓練短期大学校として開校以来、学生の自主的活動をとりまとめる学生自治会が作られ活発に活動している。学生自治会の活動は大きく分けて春の体育大会、秋の学園祭(学園祭は恵風祭と呼称される)およびサークル活動である。この3つの活動は、活動母体である学生自治会が自主的に企画し、予算を組み行うもので、学校サイドはこれらの諸活動をバックアップはするが、企画や予算の内部に立ち入って指導することはない。

体育大会、学園祭およびサークル活動のうち、学生が最も力を入れて取り組むのは学園祭である。昨年度の学園祭は平成13年11月10日(土)、11日(日)の両日に行われ、新設大学校での第1回目ということから、学生たちは本校をPRする意味でも学生間の絆を深める意味でもかなりの力を入れて実施し



写真1 学園祭のアーチゲート

た。写真1は学園祭当日の正面入り口である。

本稿は、当校学生自治会の活発な行動力と企画力を紹介するのが目的で、その第1報としてまず学生自治会の組織を紹介し、体育大会、サークル活動の実際および学生が最も力を入れ盛大に行われた学園祭の企画までを紹介する。また、学校の職員がこれら行事にどのように関わったかについても述べる。

2. 学生自治会の紹介

2.1 自治会の歴史

自治会が発足したのは、小山職業訓練短期大学校3期生が中心となって学園祭(当時は職短祭)を開催しようとするなか、まずは自治会を作ろうとの動きが発端であった。まず始めに、主だったメンバーによる組織作りから始まり、自治会の会則作成、会員から会費の徴収を行い、どうにか予算化された組織として産声をあげるに至った。当然のことながら役員の数、予算も限られたなかでのスタートなので、

自治会の運営は想像を超えた幾多の困難があったと記憶している。模擬店の骨組み作り、何やら怪しげな「おかま（今風ニューハーフ）カフェ」と徹夜の連続で準備をして、どうにか第1回の学校祭をやり遂げたことにより、ようやく学校祭が自治会行事として認知され、活動を始めることになった。

2.2 自治会体制と年間スケジュール

当時、自治会の役員は会長1名、副会長2名、会計2名、書記2名、自治委員各科2名により構成されていた。また、自治会の行事を担当する実行委員は委員長1名、副委員長2名、書記2名、実行委員各科2名の構成により、体育祭、学園祭の行事を担当していた。

従来よりの自治会年間スケジュールを次に示す。

- 4月 総会 新役員の選出
- 6月 体育祭
- 7月 学園祭の企画立案
- 8月 企業への学園祭協力依頼
- 9月 学園祭パンフレット、ポスター作成
- 10月 学園祭
- 2月 役員交代

2.3 自治会の理念

自治会活動の基本は学生自身の自主活動であるが、かなりの部分で教職員は協力してきた。当初は、自治会役員のなり手がいない、会費が集まらない、他の会員の協力が得られないなどの問題が慢性化しており、何度となく自治会活動に赤信号が付く一歩手前であった。こうしたなかで学生達は「自治会の活動は自主活動である」という信念を持ち続け、自分達が諦めたらそこで終わりにするという、危機意識を常に持ち、幾多の困難を乗り越えてきた。それもほんの一握りのメンバーの踏ん張りによってであり、今日があるのも卒業していった学生達の熱い想いが継承されていることを忘れることはできない。

3. サークル活動について

現在学生自治会には次に示す8つのサークルと4

つの同好会が登録されている。

- (1) サークル
- ① アウトドアサークル（キャンプ・釣り・スキー）
 - ② アマチュア無線（国家資格の取得）
 - ③ マルチメディアサークル（HP作成，国家資格）
 - ④ 空手部
 - ⑤ バスケットボール部
 - ⑥ 球技部
 - ⑦ バドミントン部
 - ⑧ サッカー部

(2) 同好会

- ① 柔道同好会
- ② フットサル同好会
- ③ 電気自動車製作同好会
- ④ ビリヤード同好会

これらサークルと同好会の大きな違いは学生自治会から活動費が出るか否かであり、同好会には原則としてサークル費は支給されない。

サークルは毎年活動計画を学生自治会に提出することによってサークルとして存続できる。これがなされないと抹消される。また、同好会は新たなサークルを作るための第1歩である。サークルができるまでの流れを図1に示す。

まず同好会を発足し、月に一度学生自治会へ活動内容の報告書を提出する。その活動が1年間経過した場合にはサークルとして認められるというものである。これらの考え方は、活動がなされないサークルの乱立を防ぐためのものである。サークル（同好会）は、会員数および顧問に関するサークル規定を満たし、活動場所ならびに活動内容を明確にしなければならない。

8サークルのすべてに顧問の教官が1人または複

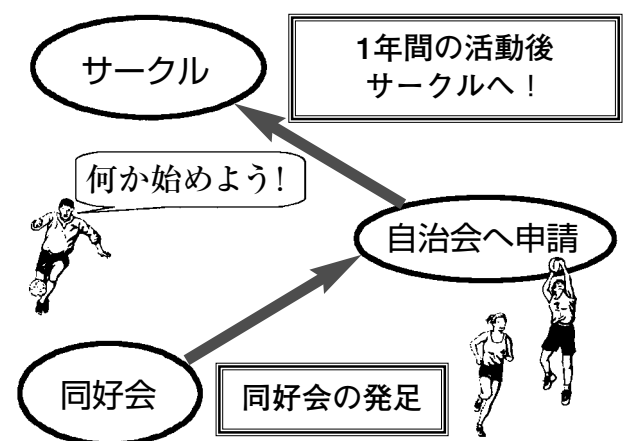


図1 サークルへの流れ

数付き指導する。サークルの内容が顧問となる教官の得意とする場合には、具体的な技術指導も行い、土日の対外試合のときには学生と一緒に参加する。指導は主として安全にかかわることや、時間の管理である。

4. 体育大会の紹介

写真2，果たして打ち上げられた白球はヒットとなったか凡打となったか？あるいはエラーを誘ったのか…？ともかくも、「老醜はあっても、老美は辞書になし」というように、まさに若さは美であることに間違いなだらう。さて、そんな彼らが力を入れるもう1つのイベントに体育大会がある。それについて簡単に触れてみたい。

体育大会は毎年1回、6月初旬に開催される。昨年はあいにくの天候のなか6月6日（水）に行われた。種目はバレーボール、ドッジボール、卓球そして大縄跳びの4種目で、大会は各種目ごとの職員チームを含めたトーナメント方式によるクラス対抗戦である。そして上位3位までが表彰され、賞状と順位相当の賞品がもらえるのである。

この大会は準備から実施、締めくくりに至るまで、すべて学生自治会が主体となって行っている。体育大会が近づくと実行委員会が組織され、大会の3週間くらい前から動き出す。EXCELを使って綿密なタイムスケジュール表をつくる。そして、審判会議（競技種目の決定、ルールの制定）、レンタル品の発注、賞品の買い出し、弁当の手配から選手メンバー表の作成、トーナメント表の作成、大会当日の時間割、審判員の配置などなど、これらはみなそのスケジュール表に沿ってこなされていく。大会の時間割は晴天と雨天の2つの場合が用意されていて、それに合わせて行動計画も2種類つくられる。昨年度は好天に恵まれなかったが、晴天の場合にはバレーボール、バスケットボール、キックベースボールそして綱引きをやる段取りだった。

一方トラブルの対策についても配慮されており、使用道具の一覧表による管理、諸注意事項の掲示、昼食引換券の導入といった工夫もなされていた。



写真2 ソフトボールの試合にて

応用課程が新設され学生数が増し、体育祭として統制が取れにくくなるのでは、という懸念もないではなかったが、結果として、むしろ若いマンパワーの増大による活性化効果のほうが大きかったようだ。

ものの搬入・搬出から大会の運営進行まですべて学生たちのやる気にかかっているわけであるが、そのなかから、きっと仲間同士の手作りの良さというものを学んでくれているものと期待している。

5. 恵風祭の企画紹介

5.1 恵風祭の由来

学園祭の名称が職短祭から恵風祭に変わったのは、第4回からだ記憶している。現実的な名称よりロマンがある名称への要望から、当時の役員により変更された。この頃から、企画が少しずつ変化して内容が充実してきた。お祭りの雰囲気を残しつつ校内の展示にも力を入れ、何よりも地域の人々に広く知ってもらおうとの考えから、広報にも力を入れ恵風祭最後の日には、お楽しみ抽選会を通して部外の方も参加し大いに盛り上がった。

5.2 学生実行委員体制

次に恵風祭の学生実行委員について述べる。実行委員体制は、実行委員長および副実行委員長のもとに仕事内容から次の6つの局が作られた。

- ・企画局：企画立案を行う
- ・渉外局：企画を受けて、外部と出演の交渉、広告集めや出展企業を掘り起こす



写真3 恵風祭実行部隊

- ・広報局：パンフレットやポスター，チラシを市内に配布する
- ・編集局：パンフレットやポスター，チラシを作る
- ・総務局：会計その他を担当する
- ・技術局：舞台の制作やテント張りなどを担当する

各局には局長1名，局次長1名のほか数名の局員が配置された。実行委員は総数30名で，これに自治会役員が加わるので，写真3のように40名近い実行部隊である。

5.3 職員のバックアップ体制

学生自治会は6月頃から恵風祭の準備に取りかかる。自治会顧問の教官は3月に次年度の自治会体制が確立した時期に名乗りをあげ，自治会をバックアップする。企画や予算の配分は学生が行っており，顧問の教官が口をはさむことはない。企画や実施場所についての学校の了解は基本的には学生自治会が学務課と相談して決めていくが，顧問の教官も当然その相談にのる。

短期大学の時には，2年間という短い期間で学生が卒業するので，前年度企画の学生間での引き継ぎが不十分であるのは避けられず，具体的な行事の企画や方法なども顧問の教官が指導していた。しかし昨年度は応用課程も立ち上がり，前年の自治会役員経験者も応用課程に進学したこともあり，教官サイドからの細かい指導は必要なかった。

ただし，恵風祭が近づくと，恵風祭役員は全体の準備のために，また，各科の学生も科の企画の準備に入り夜遅くなる。したがって恵風祭の前3週間程度は，教官が学生と一緒に学校に残り，学生の面倒をみることになる。通常学生は夜中の12時頃まで作

業するので，機械警備の施錠は夜中の1時から2時頃である。これが3週間ほど続く。実際には10数名の教官が交代で，恵風祭を準備する学生に夜遅くまでつきあった。特に恵風祭の前日ともなると学生は追い込みで徹夜となる。それに応じてかなり多くの教官も学校に泊まり込むことになる。

5.4 昨年度の企画

学生が作り上げた恵風祭の全体企画を次に示す。

11月10日（土）

10：00 オープニングセレモニー

11：30 強飲強食（フードファイター）第一部

13：00 マジックショー

15：00 強飲強食（フードファイター）第二部

10：00～17：00 模擬店，版画展，各科展示

11月11日（日）

12：00 関東武蔵太鼓

15：00 大抽選会

10：00～16：00 模擬店，版画展，各科展示

学生にとって初日の強飲強食（以下フードファイターと称す）が最大のイベントであり，これを是非成功させたいと企画を練った。フードファイターとはテレビでも時々紹介されている，いわゆる早食い競争競技である。職員からは，この企画について飯を早く食べるのも1つの特技だから，それを紹介するのも楽しいことだとする意見と，飽食の時代を象徴するものであまりいただけないとの意見があったが，学生は現代風の若者にマッチしたよい企画だとの割り切った考えであり，それはそれでよしとし，状況を見守った。学生が作った学園祭のホームページをみて，テレビ局TBSから取材の申し込みがあり，マスコミも注目する企画であった。

5.5 恵風祭の準備

(1) 広告集め

学生自治会の自治会費のみでは恵風祭の費用がまかなえないため，例年7月に入ると学生たちは恵風祭パンフレットに載せる広告を企業やお店を訪問して集める。夏の暑いときでもスーツ姿で訪問する。今回も100社以上を訪問し，約50件の広告を集めた。



写真4 学生掲示板



写真6 立て看板



写真5 のぼり旗



写真7 巨大文字

例年協力してくださるお得意先も数多くある。専門課程の1年生にとって会社回りは初めての経験で大変緊張するし、うまく話せなくて焦ってしまうとの学生の声である。

(2) パンフレットと学園祭ホームページの作成

10月始めには60ページからなる恵風祭のパンフレットが完成する。表紙のデザインは情報技術科の学生がパソコンで仕上げた。この表紙はなかなかのきばえで、ポスターにも使われる。中身はイベントの紹介、専門課程・応用課程の各科紹介、模擬店や企業広告など盛りだくさんで、学生が創意工夫して作り上げたあとがみえる。ポスターと恵風祭まであと何日かを掲示した自治会掲示板が写真4である。

この作業と並行して、インターネット上に関東能開大学園祭のホームページを作り上げる。学生はホームページをなかなか見栄えよく作る。インターネットには学園祭に関するホームページがいくつかあり、全国の大学、短大の学園祭情報が数百校掲載されている。ネット上に関東能開大学の学園祭が掲載さ

れたことから、ネットをみて学園祭に参加したとの参加者も多くみられ、情報収集手段としてのITの役割は大変大きいと実感した次第である。

(3) 看板、横断幕の作成

夏休み明けから校内や学校の外周フェンスに張り巡らす旗や、メインステージに使う横断幕、看板の製作に取りかかる。写真5ののぼり旗は布製で「関東能開大」および「恵風祭」と染め抜いたものを50本、業者に発注しフェンスに取り付けた。

立て看板は写真6のように恵風祭の企画と場所を明示したもので、幅30cm、高さ1.5mのものを学生がすべて手書きで15本作製した。

また、学校の正面玄関に立てかける、大きなイベント用看板は幅90cm、高さ3mのベニヤ製で、これもすべて手作りである。メインステージを飾る垂れ幕は幅が10mもある大きなもので、「恵風祭」の大きな文字を布に絵の具で書くには技量が必要である。写真7は文字の輪郭を取ったあとの色塗り作業である。実習場教室を使って、授業終了後連日夜中

の1時頃まで準備する。学生は皆楽しそうである。

メインステージの舞台の横を飾る幅1.5m、長さ12mの「関東職業能力開発大学校」の横断幕も白布に文字を同様な方法で転写して作る。

(4) メインステージの製作

大学校正面玄関の横に、高さ1.5m、幅12m、奥行き6mのメインステージが作られた。メインステージの製作は次の手順で行われた。まずメインステージ上で行われるイベントに必要なステージの広さを検討し、そのステージを作るにはどのような構造とすればよいのかを考え、やるからには立派なステージを作ることにした。限られた予算のなかで、実習廃材の木材、足場の建柱、鉄パイプで製作を進めた。

ステージの土台は外径48mm長さ5mの鉄パイプで作り、床は次年度以降にも使用できるように合板床パネルとし、横断幕を支える骨組みは建柱とした。横断幕を掲げる建柱は3層で、建柱の水平・垂直をレーザーレベル計で計った。土台の鉄パイプはレンチで組み付けレベルを出した。床パネルはパネルソー、手押しかな盤、自動かな盤等を使用して製作した。作業は10名ほどで行われ、恵風祭1週間前の土・日曜日から始め、平日は夜間に作業し5日間で終了した。写真8は恵風祭前夜の鉄パイプ組み立て作業の様子である。若者らしい力強い作業である。

こうした作業は特殊な技能・技術を必要とするものではないが、日常学生が実習で使用している機械・工具を十分に活用し、自らが考え実行したもので、ものづくりのすばらしさを学生達は実感できた。

写真9は完成したメインステージである。ステー



写真8 メインステージづくり



写真9 メインステージ完成

ジの中央に大きく「恵風祭」の文字が浮き立ち、立派な舞台となった。

6. おわりに

関東能開大の学生の自主的活動として、学生自治会の構成、サークルおよび体育大会の現状、学園祭である恵風祭の企画までを本稿で述べた。当校は学生総数約300名と小規模校である。全国の大学は数千名規模が一般的であり、そうした規模の大学でもなかなか自治会を組織できず、ひいては学園祭も行えない大学があると聞いている。

こうしたなかで、300名規模の当校で例年学生は自ら行事を企画し、盛大なお祭りを行っている。学校側は学生の活動をバックアップするが、具体的な細かい指示はしない。指示がなくても学生は生き生きとしてこれらの活動をこなしている。それは、学生がこれまでの自治会の伝統を引き継ぎ継続することに意義を見だし、かつこれらの諸活動が学生にとっては苦しいけれども、やりがいのある楽しいものであるとの認識に基づいているためと思われる。

今回は学生の自主的活動実践編として、学園祭である恵風祭当日の様子を紹介する予定である。

最後に、当校の学園祭に当たっては、昨年まで当校に勤務された埼玉ポリテクセンターの大石賢氏および関東ポリテクセンターの庄司久美子氏、両氏の当校における学生指導の労に対し、深く感謝の意を表したい。